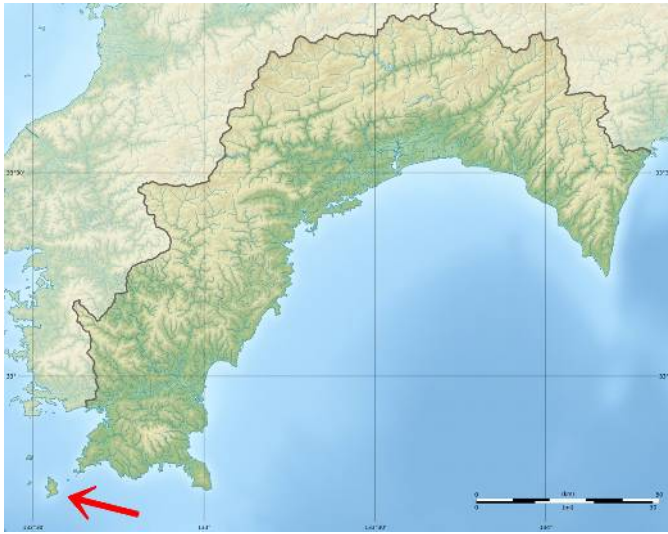


「高知紀行 (9)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「沖の島 (おきのしま)」は、かつては島全体が「沖の島村」という独立した自治体でしたが、現在は「宿毛市 (すくもし) 沖の島町」という行政区画になっています。歴史的には、北の「母島 (もしま)」が伊予國領、南の「弘瀬 (ひろせ)」が土佐國領だったので、今でも異なる風習が残っているそうです。



とにかく遠い島です。足摺岬よりも更に西にあり、四国最南端の島になります。東京から高知まで飛行機で行っても、その日のうちに島に着くのは非常に難しく、どうしても途中で1泊になります。



最も大きな集落は「母島 (もしま)」です。島で一番大きな港もここに 있습니다。小学校は港から離れた高台にあり、歩いても行けますがマムシが多く出るそうなので、この日は港に車を停めていた小学校の先生に送ってもらいました。



沖の島は島全体が「足摺宇和海国立公園」に指定されています。何よりも特徴的なのは海の美しさで、島の周囲に生息する魚類の種類は、日本最大級とも言われています。



連絡船はわずか数分の寄港で、乗客、荷物、郵便物の受け渡しを済ませて、足早に片島港 (宿毛市) に向かって出航しました。



港から小学校 (正確には宿毛市立沖の島小中学校) までは車で 10 分ほどでした。





現在、小学生が2名、中学生が4名、保育園児が1名の計7名の在籍ですが、それぞれの校長、副校長、担任、栄養教諭などたくさんの教職員が働いています。給食も自校調理というところがすばらしいです。



授業まで少し時間があつたので、学校の美術の先生に島内を車で案内していただきました。これは、島の北東側にある「花崗閃緑岩」の露頭です。少し削ると、美しい岩相が観察できました。



玄関にはこどもたちが作った「歓迎ボード」がありました。沖の島の形状を正しく表現していてすばらしいと思いました。



歴史的にも非常に興味深い島です。永らく伊予（愛媛）と土佐（高知）が領有を争い、かつては島の中央部に「土佐・伊予の国境線」がありました。



沖の島は地質的にも興味深い島です、主として古第三紀や新第三紀の堆積岩（付加体）と火成岩（花崗岩や花崗閃緑岩など）で構成されています。



島の北側には花崗岩の岩相が見られます。この道路沿いの露頭は風化が進んで、周囲には崩れた白い石英片が集積していました。